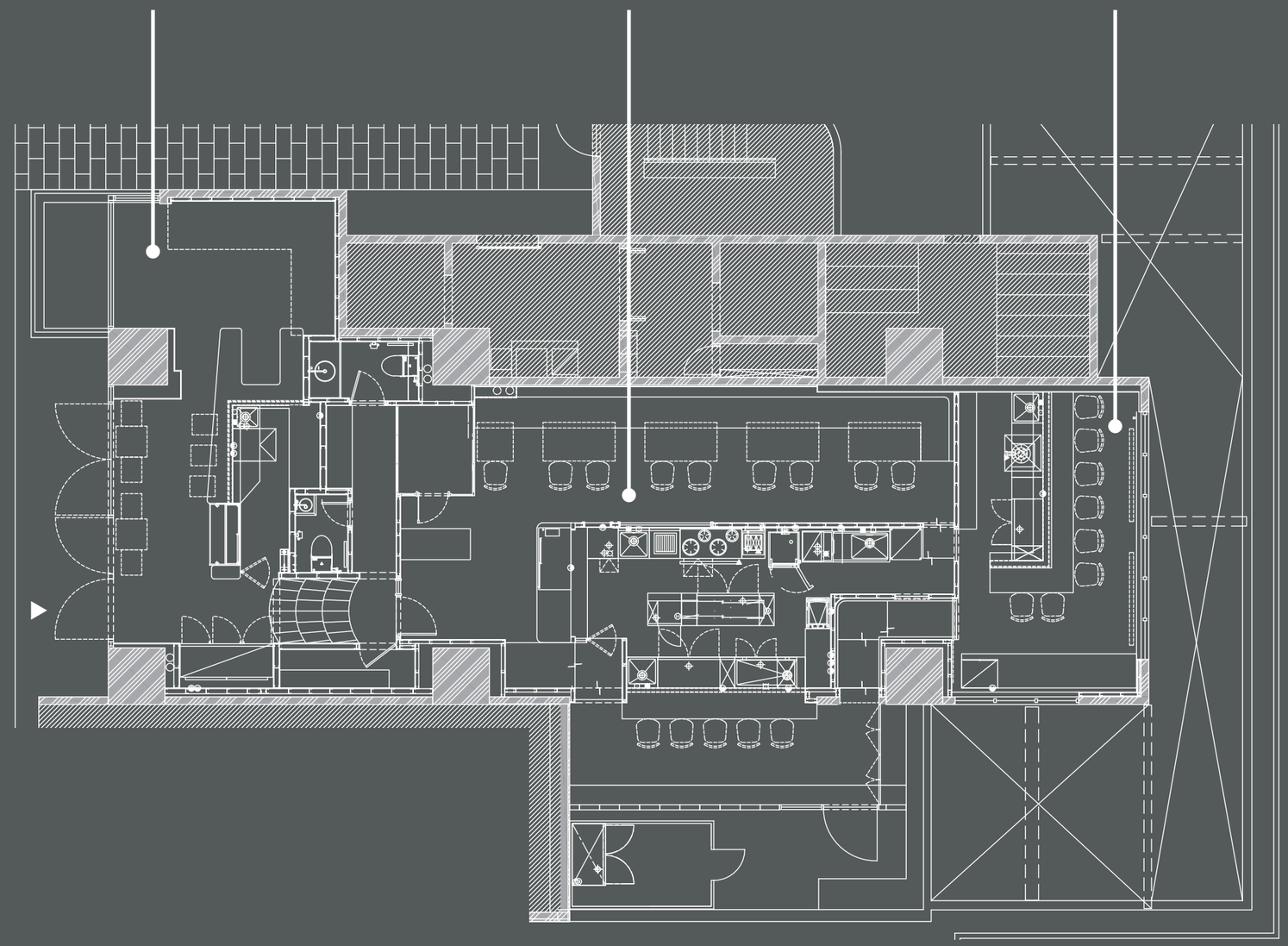
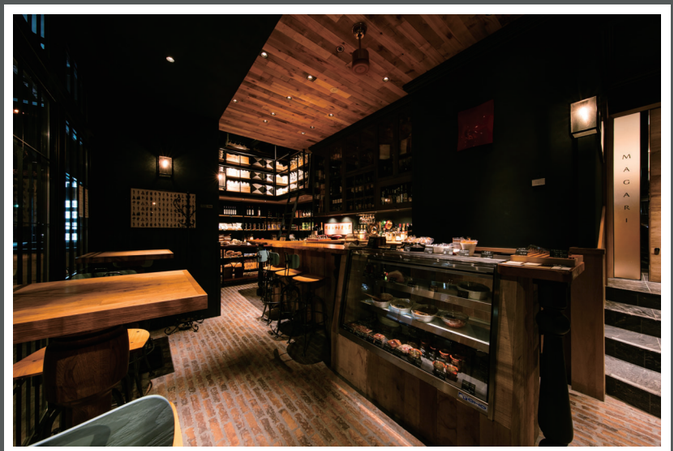
奥へ。奥へ。奥へ。

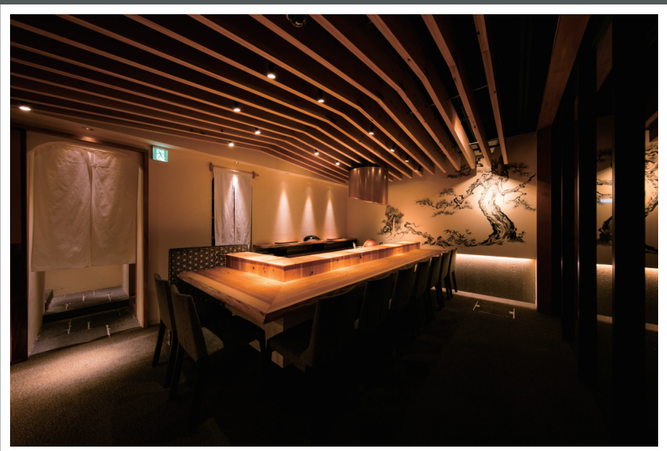
札幌市中央区大通にスタイルとコンセプトの異なる飲食店を同じ場所に同時に 3 つ設計した。その外部には、鋼材を組み合わせ製作したオーニングを構え、大通りを闊歩する人々の目を引く。夏季には店先にテーブル席を設け、オープンテラスで過ごす人々の姿も優雅だ。

入り口は一つ。入ってすぐのCHIOSCO（キオスコ）しか看板を掲げていない。その先のお店は知る人ぞ知る札幌の名店がつづき、奥へ行くほど気軽さはなくなっていき、客単価もぐんと上がるが、その先になにがあるのか、人の探究心をくすぐるつくりになっている。



1 PLAN
SCALE 1/100





ALIMENTARI
CHIOSCO
LIQUORE E GASTRONOMIA

＜CHIOSCO（キオスコ）＞は、駅によくある Kiosk（キヨスク）のイタリア語版。「近所にあると便利なお店」ということで店先に構えたデリカフェ。物販もあり、夜はバーとして遅くまで営業している。

お店ができあがったとき、前からそこにあったような、そういう雰囲気をつくり出すことを大切にしている。そのため、新しい材料や自然界にない人工的な素材は使わない。

平面計画としては＜CHIOSCO＞を、奥に続く＜MAGARI＞、さらに奥の＜枠＞へと人を誘う重要な導入部として位置づけ、入りやすい空間となるよう、既存の壁・サッシを解体し、間口全部を開口部として外部から見えるように設計した。

MAGARI
CUCINA ITALIANA

＜CHIOSCO＞店内にある木のドアを押し開けた先は、＜MAGARI＞。札幌で一番美味しい（そして高い）イタリアンレストランといえばこの店の名が挙がる。

その評判に恥じぬような空間をと、思い切りデザインした。空間も什器のディテールもかなり複雑で、製作はすごく大変であったが、その甲斐もあり独創的でおとぎ話の世界に入り込んだような、柔らかい雰囲気に仕上がった。

シェフが真向かえに立つカウンター席には一枚ものの大理石をダイナミックに用いた。大きすぎて設置には本当に苦労したが、その仕上がりはすばらしいものとなった。

枠 天ぷら
～わく～

＜MAGARI＞のカウンター席の奥にある白いのれんをくぐるとその先は、週に 1 日だけ営業する天ぷら屋＜枠＞。

カウンターと天井のルーバーにはふんだんに杉を用いた。普段、木の節は好まないが、あえて付け台は短辺側に木目を向け、断面を斜めにすることでユニークな表情となった。

壁・天井は全て漆喰で仕上げ、画家が直接壁に絵を描き、壮大な空間に仕上っている。

3 店舗同時設計というこのプロジェクトは一重にわたしのデザインに対する、オーナーシェフの絶大な信頼でもって実現したことは言うまでもない。感謝の言葉しかない。